

第2期

平成24年度

報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード：7022

創業第二世紀を “しなやかに、 したた そして強かに”

株主・投資家の皆様には平素は格別のご高配を賜り、ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

サノヤスは1911(明治44)年に造船業として創業、昨年1月に持株会社・分社化による会社組織の再編を行い、創業第二世紀へと船出いたしました。持株会社のもと造船、陸上、レジャー、サービス事業の計14事業会社で構成される新生「サノヤスグループ」の共通スローガン『確かな技術に まごころこめて』を旗印として、各事業会社はそれぞれの事業環境に応じたビジネスモデルを再構築し、更なる社業発展を目指してまいります。

現在の経営環境は不確実・不安定・不透明で、まさに“変化が常態化”している状況にあると言えますが、逆境こそチャンスと捉え、当社グループは“変化”に挑み、創業第二世紀を“しなやかに、そして強か(したたか)に”歩んでまいります。



代表取締役社長
上田 孝

3つのポイント

- 1 減収減益傾向、抜本的なトータルコストダウンに注力
- 2 エコシップの開発と最適建造体制の構築等による受注残の確保
- 3 “自立と自律”をスローガンとして第2のコア事業の強化

減収減益傾向下、 抜本的なトータルコストダウンに注力

平成24年度の当社グループを取り巻く事業環境は、造船事業では世界経済の減速と新造船の大量竣工に伴う海運市況の低迷から船腹需要は全般に亘って低水準で推移し、過剰な建造能力の存在も重なって新造船船価の下落を招く厳しい状況となりました。陸上事業では一部東日本大震災の復興需要もありましたが、民間設備投資が低水準で推移する等、厳しい状況が続きました。

これらの結果、当社グループの連結業績は、売上高590億27百万円(前期比19.2%減)、営業利益44億7百万円(前期比45.0%減)、経常利益43億72百万円(前期比43.4%減)、当期純利益は繰延税金資産の一部取崩しもあり4億26百万円(前期比65.5%減)となり、前期比で減収減益となりました。

このような状況下、当社グループはトータルコストダウンを目指し、「チームサノヤス」活動による製造コスト低減と現場力強化を推進する他、経費の抜本的削減運動として「スリムアップ25」運動をスタートさせました。

エコシップの開発と 最適建造体制の構築等による 受注残の確保

現在、海運・造船業界は船腹過剰と造船能力過剰という“二つの過剰”に直面し、「不況」の真つただ



中にあることは否定できません。当社グループは、こうした厳しい環境下、最適建造体制を構築するため操業をスローダウンするとともに、得意船型で省エネ化を進化させた新船型82千重量トン型及び117千重量トン型バルクキャリアーを市場に投入し、平成24年度は両船型で計4隻の受注を確保しました。この結果、造船事業では新造船受注を約3年分保有しており、今後その維持に努めてまいります。具体的には、①燃費効率の一層優れたニューモデル船を開発し、②徹底したコストダウンを進めて競争力ある船価を提供する、そして③顧客ニーズの変化に対しスピーディに対応し、④コストパフォーマンスを極大化できる最適建造体制を維持する、という4つの課題に総力を挙げて取り組んでおります。中でも、顧客ニーズが高い環境対策を盛り込んだ一層の省エネ船の開発は

最大の課題であり、これを実現すべく技術開発本部の陣容を強化いたしております。また、新造船建造減を埋めるべく、水島製造所での船舶修繕事業を再開いたしました。

“自立と自律”をスローガンとして 第2のコア事業の強化

当社グループはこれまで“コア事業”である造船事業以外の様々な分野に進出し多角化を図ってきました。これらの多角化した事業(“第2のコア事業”)であるサノヤス造船(株)を除く13事業会社については、国内景気回復の波を上手く捉えることで成長できると確信しております。各社とも持株会社体制のもと、“自立と自律”をスローガンとして、技術力に裏打ちされた製品・サービスの提供によりお客様にご満足いただき、事業会社としての未来像を明確にしてコア事業足りうる実力を備えるべく、引き続き努力してまいります。更に、国内はもとより海外においても新規販路を拡大することによる収益の上積みや、価格競争力の確保を目指し、グループ各社製品・サービスのクロスセル等、事業シナジーの追求も図ってまいります。また、各事業とのシナジーをキーワードとしてM&Aも積極的に進めてまいります。

サノヤスグループは常に優れた技術を持ち続ける会社でありたい、そして、その技術の担い手であ

る人の質(個々の“人財”能力)とその総和としての企業力を高めることが最重要だと、私は考えています。グループ15社の従業員(約1,400名)各人がそれぞれの部署において目標を達成し、各社が独立採算を徹底していくことと同時に、“チームサノヤス”としての一体感を高めながら、変化への挑戦を続け、この厳しい大競争時代を勝ち抜いていく所存です。

そして、多くのパートナー(ステークホルダー)の皆様から評価され存在感を認められる『良い会社(Good Company)』を創り上げてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。



(単位：百万円)

	第1期	第2期
	平成24年3月期	平成25年3月期
経営状態		
売上高	73,023	59,027
営業利益	8,009	4,407
経常利益	7,727	4,372
当期純利益	1,236	426
財政状態		
総資産	73,170	69,454
純資産	15,482	16,193
自己資本比率(%)	20.0	22.1
1株当たり指標		
当期純利益(円)	37.94	13.09
純資産(円)	448.22	470.43
配当金(円)	5.0	5.0

ポイント 1 連結純資産

当期末における連結純資産は、前期末に比べて7億10百万円増加し、161億93百万円となりました。これは主に、資本剰余金が3億78百万円減少したものの、利益剰余金が6億42百万円、その他有価証券評価差額金が4億61百万円それぞれ増加したこと等によるものです。これにより、当期末の自己資本比率は前期末比2.1ポイント上昇し、22.1%となりました。

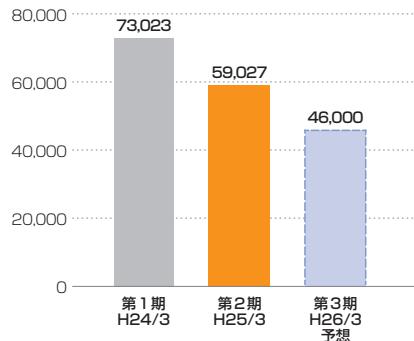
ポイント 2 当期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題として認識しており、企業体質強化に努めながら、業績に対応し安定した配当を維持・継続することを基本方針としております。

当期の期末配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。

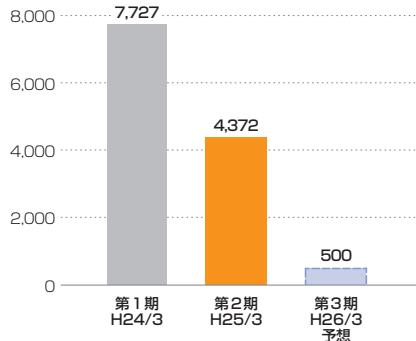
売上高

(単位：百万円)



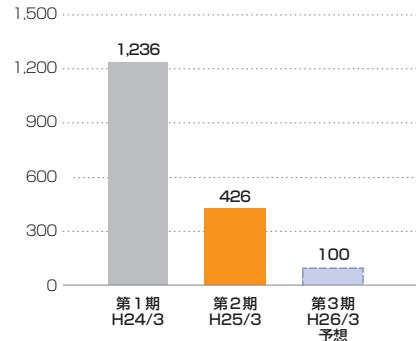
経常利益

(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)



造船事業

平成25年3月期 売上高 **437億70**百万円

当期は世界経済の減速と新造船の大量竣工により海運市況が低迷、それに伴う新造船需要の減少と船価の低下を招いている新造船マーケットにおいて、燃費性能で差別化を果たした82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー3隻と117千重量トン型ハンディケープ1隻の計4隻を受注いたしました。その結果当期末の受注残高は約3年分の613億68百万円となりました。

新造船の引渡しはパナマックス・バルクキャリアー3隻、ハンディケープ5隻、チップ船1隻の計9隻であり、修繕船等を加えた当該事業の売上高は前期比150億38百万円(25.6%)減少の437億70百万円、営業利益はコストダウンに注力したものの新規受注船の受注工事損失引当金の計上もあり55億57百万円となりました。



120千重量トン型
ハンディケープ・バルクキャリアー
「JUBILANT GLORY」 (サノヤス造船株)



83千重量トン型
パナマックス・バルクキャリアー
「KEY LIGHT」 (サノヤス造船株)

※水島製造所の建造総トン数累計1,000万G/Tを達成した竣工船

陸上事業

平成25年3月期 **売上高** 111億13百万円

建設工事用エレベーター製造・レンタル、機械式駐車装置製造・保守、機械部品製造、化粧品製造用機械製造、自動車部品製造、空調・給排水・環境工事の陸上事業においては、低水準の国内設備投資環境において適宜適切に顧客ニーズに即した受注活動を行い、当期末の受注残高は14億85百万円となりました。売上高は前期比11億51百万円(11.6%)増加の111億13百万円、営業利益は8億53百万円となりました。



新型ロングスパン工事用エレベーター
「HSL-900」
(サノヤス建機株)

レジャー事業

平成25年3月期 **売上高** 37億37百万円

遊戯機械製造及び遊園地運営等を行うレジャー事業においても、顧客ニーズに即した受注活動を行い、当期末の受注残高は2億13百万円となりました。売上高は前期比1億21百万円(3.2%)減少の37億37百万円となり、損益面は採算改善に努めましたが、豪州観覧車の保証工事引当金を16億23百万円追加計上したこと等から14億65百万円の営業損失となりました。



東武動物公園「エマさんのチーズ風車」
(サノヤス・ライド株)

連結財務諸表

連結貸借対照表

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	前連結会計年度 (H24.3.31)	当連結会計年度 (H25.3.31)
資産の部		
流動資産	49,761	47,090
固定資産	23,408	22,363
有形固定資産	17,020	16,160
無形固定資産	693	636
投資その他の資産	5,694	5,567
資産合計	73,170	69,454
負債の部		
流動負債	38,353	31,264
固定負債	19,334	21,996
負債合計	57,688	53,260
純資産の部		
株主資本	13,995	14,259
資本金	2,538	2,538
資本剰余金	1,106	727
利益剰余金	10,356	10,999
自己株式	△5	△5
その他の包括利益累計額	606	1,066
その他有価証券評価差額金	606	1,068
繰延ヘッジ損益	—	△2
少数株主持分	880	867
純資産合計	15,482	16,193
負債純資産合計	73,170	69,454

連結損益計算書

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	前連結会計年度 (H23.4.1 ~H24.3.31)	当連結会計年度 (H24.4.1 ~H25.3.31)
売 上 高	73,023	59,027
売 上 原 価	60,374	50,225
売 上 総 利 益	12,648	8,801
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	4,638	4,393
営 業 利 益	8,009	4,407
営 業 外 収 益	313	652
営 業 外 費 用	595	688
経 常 利 益	7,727	4,372
特 別 利 益	6	57
特 別 損 失	674	372
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	7,059	4,057
法 人 税 等 合 計	5,835	3,643
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益	1,223	413
少 数 株 主 損 失 (△)	△12	△13
当 期 純 利 益	1,236	426

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	金額 (単位: 百万円)	
	前連結会計年度 (H23.4.1 ~H24.3.31)	当連結会計年度 (H24.4.1 ~H25.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,723	△927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,139	△2,178
財務活動によるキャッシュ・フロー	△126	5,156
現金及び現金同等物に係る換算差額	△144	80
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,133	2,130
現金及び現金同等物の期首残高	28,076	24,007
現金及び現金同等物の期末残高	24,007	26,138

連結株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 の 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	2,538	1,106	10,356	△5	13,995	606	-	606	880	15,482
当期変動額										
欠損填補		△215	215		-					-
剰余金の配当		△162			△162					△162
当期純利益			426		426					426
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						461	△2	459	△12	447
当期変動額合計	-	△378	642	△0	263	461	△2	459	△12	710
当期末残高	2,538	727	10,999	△5	14,259	1,068	△2	1,066	867	16,193

TOPICS

水島製造所、船舶修繕事業再開

平成25年2月から、約10年ぶりに水島製造所(サノヤス造船株式会社)での船舶修繕事業を再開いたしました。これまで主に新造船の建造のみを手掛けていた水島製造所の設備の一部を船舶修繕に振り向け、800トン荷重クレーンやドック等の大型設備を活用した効率的かつ大規模・短工期な船舶修繕工事に対応してまいります。



会社概要 (平成25年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	平成23年10月3日
資本金	25億3,800万円
従業員	従業員数 40名 (連結 1,477名) 平均年齢41.6才
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
東京支社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番3号
東京中央支社	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番1号

株式情報 (平成25年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,600,000株
	株主数	3,376名

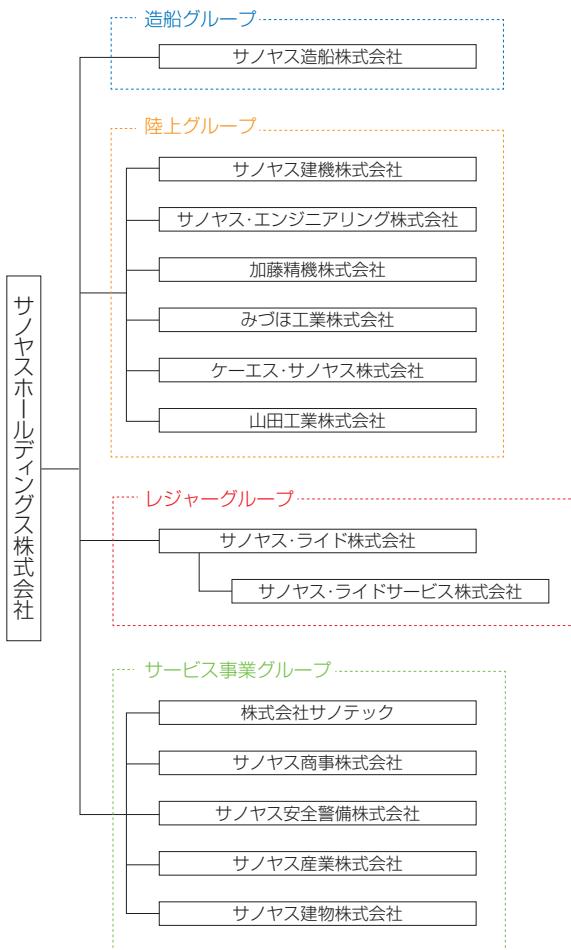
大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	サノヤス共栄会	2,944,800	9.04
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
	株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
	ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
	三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
	住友商事株式会社	1,000,000	3.07
	住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
	新日鐵住金株式会社	844,800	2.59
	三井住友信託銀行株式会社	650,000	2.00
	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	564,000	1.73

(注)持株比率は、自己株式(22,365株)を控除して計算しております。

役員一覧 (平成25年6月25日現在)

代表取締役会長	落合 諒	取締役	衛藤 博司	執行役員	布施 俊博
代表取締役社長	上田 孝	取締役	山本 周平	執行役員	宮武 宏二
代表取締役副社長執行役員	森本 武彦	取締役	白神 敬治	常勤監査役	大屋 雄次
代表取締役副社長執行役員	竹原 久雄	取締役	篠原 照夫	常勤監査役	桐野 恭至
取締役	中道 保信	取締役	北川 治	監査役	森 薫生
取締役	浅間 成人	取締役		監査役	平野 豊三郎

サノヤスグループ組織図



沿革

- 明治44年 4月 — 佐野安造船所創業
- 昭和15年 6月 — 佐野安船渠株式会社 設立(資本金150万円)
- 42年 6月 — 大阪証券取引所市場第2部上場
- 48年 4月 — 資本金14億3,000万円とする
- 49年 1月 — 水島造船所操業開始
- 49年 2月 — 大阪証券取引所市場第1部上場
- 59年 8月 — 株式会社サノヤスに社名変更
- 60年 2月 — 立体駐車装置事業に進出
- 平成 2年 10月 — 株式会社サノヤスと菱野金属工業株式会社が合併する
- 3年 4月 — 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併する
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 5年 4月 — 高速エンジン整備事業に進出
- 12年 1月 — LPGタンク事業に進出
- 17年 4月 — 東京テクノセンター新設
- 19年 3月 — 資本金25億3,800万円とする
- 23年 10月 — 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス株式会社設立
- 24年 1月 — 持株会社 サノヤスホールディングスと14の事業会社による新組織体制をスタート

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-782-031
(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページ)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

